

■児童・生徒の学力の状況

板六小の平均正答率について全国と比較した。令和七年度は、全国平均と比較して、国語は8.2ポイント、算数は5.0ポイント、理科は1.9ポイント上回った。どの教科も無解答率が低く、最後まで問題を解こうとしていたことがうかがえる。学習活動や意欲に関しては、全国よりも低い傾向がうかがえる。また、主体的な学習の調整及び自己有用感や向社会性が全国と比べても低く、昨年度と比べても低い傾向にある。RSTの結果は昨年度より上がり、全ての項目で平均以上となっている。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

本校児童の学習面での課題は、語彙力・表現力・課題解決能力の不足や忍耐力、コミュニケーション能力の不足、相手意識をもつことの難しさであり、国語の「読むこと」や「書くこと」の実践を通して、自分の思いや考えをもち、表現できる児童が増えてきた。また、総合的な学習の時間において、本校の特色である「ハッピーロード」や区の地域課との連携を図ることで、相手意識をもって発表する場面も増えてきた。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

自律心をもち「学び・心・体」の自立を目指す子

- ・自立心とは自分で決めた規範や基準に従い、自分の意志により行動を統制・制御する心
- ・自立とは自分自身で判断し、行動に移すこと。
- ・「学び」では「わかる・できる・楽しい授業」「自己選択・自己調整、自己決定できる授業」「板橋区授業スタンダード（ICT活用）」

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
主体的・対話的で深い学びの充実	自己有用感を高める学級・学校づくり	ICT活用と学びの個別最適化
板橋区授業スタンダードを活用して、認識（Input）→思考（Think）→表現（Output）の授業の流れを一単位時間の授業だけでなく、単元を通して設定する。必要な知識を確実に獲得させ、それを基に考えたり、話し合ったりできるような時間を十分に確保する。	自己決定・自己調整・自己選択する場面を取り入れ、学びを振り返り、互いの学びを認め合う活動を充実させ、子供が「自分は役に立っている」と実感できる環境をつくる。	ICTを活用し、子供一人の学び方に応じた支援を行い、自己選択・自己決定・自己調整の場を広げる。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 総合的な学習の時間との連携	自己選択・自己決定の活動場面の 拡充及び協働的な学びの充実	読み解く力を意識した指導や支援
中学校進学までに身に付けさせたい力を確認・共有し、基礎的な学力が定着するように指導を行う。また、板橋のiカリキュラムを活用し、生活科や総合的な学習の時間の学習を、ハッピーロード商店街をはじめ地域とのつながりを生かした学習を主にカリキュラムマネジメントを行う。町探検や店員体験、地域の歴史について聞くなどの学習を通して、地域や家庭と連携しながら児童自身が自分たちでできることを考え、実践する力を育成する。	校内研において「自分の思いや考えをもち、表現できる児童の育成」を研究主題に据え、各教科において、調べ方や学び方を子供自身が選べるようにする。学びのエリア内で自己決定・自己選択・自己調整の学習を確認・共有し、成果を公開授業等を通して区内教員に公開する。また、話し合い活動や考えを共有する活動で積極的にICTを活用し、友達の考えを共有して自分の考えと比べたり、新たな考えを構築したりするような場面を多く設定する。	基礎的読解力の6つの視点を意識して授業を組み立てる。「読み解く力」の視点を基に児童のつまずきを予想し、各教科で育成する資質・能力を身に付けさせる指導や助言の工夫を行う。